

2018年 12月 5日発行 第158号

*N.P.O.*

***Global SOROBAN Institute***

***Seminar Report***

通称:N.P.O.法人 I.M. そろばんセミナーレポート

*Think with SOROBAN*



発行 N.P.O.法人 I.M.そろばん

## ～ も く じ ～

巻頭言	1
ヒロヤの独り言	4
セミナー開催案内	5
検定試験について	6
サイコウのまなび	7
大会開催のご案内	8
検定委員会・事務局だより	9

## 世界の異常気象は天災か人災か

### 異常気象発生の原因

これまでの世界的な異常気象の出現は、地球全体や地域的規模の気候変動として、人類とは関係なく、太陽系宇宙の惑星の宿命(氷河期など)が自然界を支配し、45億年昔の地球誕生以来、一定の周期で地球にも大きな影響(天災)を与えてきました。例えば、数年の周期で自然に発生するエルニーニョ/ラニーニャ現象が、これまでは異常気象の原因であるとされてきました。これまでの異常気象は「過去に経験した現象から大きく外れたもので、人が一生の間にまれにしか経験しない極端な現象」と定義されてきましたが、近年の内容は全く異なり、現代の異常気象(激しい気象、荒天、悪天候)は従来の「天災」だけの概念とは異なり、人類が引き起こした地球温暖化問題や自然環境の破壊問題の影響を大きく受けた「人災」に基づく重大な課題となるもので、あたかも身勝手な人類に対する天罰であるように思われます。日本でも、これまでの阪神淡路大震災をはじめ、東日本大震災と原発事故、熊本大地震も未だに回復も不十分な状態であります。特に、本年の夏季はこれまでに経験したことのない歴史的な連続災害が日本列島を襲いました。6月18日には大阪北部大地震(震度6弱)があり、7月には西日本豪雨が続き、各地で大規模な被害が出ました。その後、日本各地で殺人的な猛暑が続きました。そして、7月末から日本列島を襲った台風12号は、気象庁が1951年以降、統計を取り始めた観測史上「初めて」のコースを取り、予測が難しく、上空の寒冷低気圧と猛暑の高気圧の競合で、東から西へ列島を横切る異常な経路を取りながら、各地に大被害を及ぼし、その後も猛暑と豪雨が続きました。8月には、信じられないほどの猛暑が各地を襲い、続いて、台風20号(8/23)、21号(9/4)、24号(9/30)、25号(10/6)と、連続して大型の台風が繰り返し日本列島を襲撃し、それぞれ甚大な被害を与えました。さらに、9月6日には、北海道大地震(震度7の激震)が突然発生し、想像を絶する大被害を及ぼし、長期停電(ブラックアウト)まで発生しました。これまでの大きな連続災害で本当に多くの方々がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

このような猛烈な異常気象は世界各地にも発生し、北アフリカや欧州をはじめ、米国西海岸で猛暑と異常乾燥のため大規模な山火事が発生しました。東南アジアでは、スーパー台風22号(9/15)がフィリピン北部を襲い、多くの犠牲が生まれました。さらに、インドネシア大地震も大きな被害が発生しました。米国でも、超大型のハリケーンに連続的に襲われ、想像できないほどの被害が出ています。このような世界的な異常気象は、自然要因による地球表面温度の上昇(海水温度の上昇を含む)と人為的な地球温暖化(人災)の相乗作用の結果によるもので、今後も永く続くことが心配されています。地球の平均表面温度は、過去数百万年間では、氷河期と温暖期との間で約10万年毎に揺れ動き、過去1.2万年間で

は、この気温変化が極めて穏やかになった結果、人類が繁栄出来たのです。この穏やかな自然変動に加えて、主に 20 世紀に大気中に放出された多量の温室効果ガスに起因する人為的な気候変動が地球規模で生じており、現在では自然変動を圧倒する恐れがあり、今後は人為的温暖化(人災)が異常気象を生み出す主要原因となることが予想されています。

### 異常気象対策の法的取り組み

豪雨と猛暑が続いた今夏のような異常気象に対処するため、日本政府は**気候変動適応法案**を纏め、温室効果ガスの排出削減対策(緩和策)と、気候変動の影響による被害の回避・軽減対策(適応策)を車の両輪として法的に位置付け、関係者が一丸となって適応策を強力に推進して行くことを提案しました。本法案の概略については、本レポート第 154 号でも紹介しましたが、ここでは、その具体的な内容について少し追加させていただきます。

本法案の概要は、①**適応の総合的推進**、②**情報基盤の整備**、③**地域での適応の強化**、および④**適応の国際展開**に大別されています。①では、国、地方公共団体、事業者、国民が気候変動適応の推進のために担うべき役割を明確化すること。国は、農業や防災等の各分野の適応を推進する**気候変動適応計画**を速やかに策定し、その進展状況について、把握・評価手法を開発すること。将来影響に関する科学的知見に基づき、例えば、高温耐性の農作物品種の開発と普及、魚類の分布域の変化に対応した漁場の整備、堤防・洪水調整施設等の着実なハード整備、ハザードマップ作成の促進、熱中症予防対策の推進等が挙げられます。**気候変動影響評価**は約 5 年ごとに行い、その結果等を勘案して計画を見直します。②では、適応の情報基盤の中核として**国立環境研究所**を位置付けました。例えば、米の収穫量の将来予測の中で、品質の良い米の収穫量を重点的に情報を纏めたり、砂浜消失量の将来予測など、災害防止に役立つ環境改善に関する情報を集めます。③では、都道府県及び東京 23 区を含む市町村に、**地域気候変動適応計画**策定の努力義務の強化をはかり、地域において、適応の情報収集・提供等を行う拠点として**地域気候変動適応センター**の機能を担う体制の確保、および、**広域協議会**を組織し、国と地方公共団体等が連携を強化して地域における適応策の推進などを進める。そして、④では、国際協力の推進と事業者等の取組・適応ビジネスの国際的な促進などが計画されています。

この度の顕著な異常気象について、専門家で構成された気象庁の**異常気象分析検討会**(中村尚会長)では、本年夏季の猛暑と豪雨の原因についての検討会(8/10)で「異常気象の連鎖の結果であり、その背景に人為的な地球温暖化があり、今後もこのような顕著な豪雨・猛暑などの異常気象の発生が続くことを覚悟すべき」と説明しています。

### 人類の豊かな未来を拓くために

これからの地球環境を積極的に改善して行くためには、国際的な協力体制をさらに厳密に構築することが必要ですが、各国の指導者達の責任だけでなく、人類社会の豊かな未来を拓くためには、全世界の各個人、とりわけ若者達全ての自覚と協力が不可欠であります。

霊長類の中で、人類は初めて直立二足歩行が可能になり、両手が自由になりました。ゴリラやチンパンジーは遺伝的に最も人間に近く、**五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)**も殆ど同じとされています。人類も、五感で世界を認識してきました。それにも関わらず、人類だけが異常に大きく発展出来たのは、**家族**と**共同体**を持つ二重構造の社会を創造した

ためです。その中で、それぞれがお互いに**五感**をさらに磨き上げてきました。そして、人間のみが持つ**言葉**は**五感**を共有するための手段(シンボル)として大きな役割を果たしました。人間の脳が早くから現代人並みの大きさ(1500cc)にまで発達したのも人間社会の二重構造のお陰でした。**共同体**は、150人程度の集団で生活できる大きさで、複数の**家族**が過去と一緒に体験を共有した人数、生きて行く上で頼りになる人数で構成されます。そして、**五感**に基づく共感能力によって達成されたお互いが強い繋がりのある集団なのです。

人間の赤子は**大脳新皮質**が未発達のまま生まれて来ます。生後直ぐに**家族**が所属する**共同体**の中で**共同保育**が始まります。**大脳新皮質**の**神経網**は生後から3歳位までは周囲の身近な大人達の態度や考え方、感情などの全ての情報をひたすら吸収する完全な**摸倣期**で、**言葉**と一緒に**記憶**の仕組み・**五感**を鍛えながら**情報処理**によって**知能**が育って行きます。その後、**創造・錬成**の時期では、主に**前頭連合野**の**脳細胞神経網**が大きく発展します。この段階では、**共同体**の役割が一段と大きくなり、本人にも**自覚**が芽生え、自分自身を確立して**自主性**を持つようとして、**根気**や**意志・意欲**、**創造力**が育てられます。**第六感**(鋭く物事の本質をつかむ心の働き)を正常に育てるためにも、早期から**共同体**の中で十分に**五感**を鍛えることが大切なのです。

一方、現代人は、**行動範囲**の急激な拡大に伴って、**共同体**を越えた多数の人達と付き合わざるを得なくなり、**言語**的な**情報交換**、**情報処理能力**が必要となりました。**言葉**は人間の**記憶**の**外部化**であり、**見えないものを見る効力**を持つため、さらに大きな役割を果たします。複雑な現代社会の中で、若者が自分の正しい**位置**を見つけ、自分の**能力**を理解して活躍できる場を確立するためには、**先ず最初**に**五感**を鍛え、**第六感**を精一杯に使って世界を理解することが大切となります。子供達は**自発的な学習**を通して自ら考え、育つのです。

人類はその後、急速に人口が増大し、現在では75億人を越え、深刻な**食糧問題**や**地球環境問題**が大きな課題となってきました。現代社会で解決すべき課題が山積する中で、最大の問題点は、**家族**と**共同体**の**二重構造**の社会が崩れ始めたことです。複雑な現代社会で最も大切な**家族**の**繋がり**が希薄となり、**共同の子育て**がなくなり、**共食**の機会が激減したため、**五感**を使う**情報交換**ができなくなり、**個人**が**社会**に裸で放り出されてしまいました。

人間だけが持つ**大脳新皮質**の**前頭連合野**の働きによって、これまで**教養**を身につけ、**文明**を開発し、**文化**を**伝承**して来ましたが、これは全て**意欲・創造**の**精神**の具現にほかなりません[1]。そして、各個人が自ら考え行動する**自由意志**を生み、**自主的な努力**を通して、**豊かな未来・将来**が与えられるのです。**理解力**、**判断力**、**思考力**を養うことも大切ですが、もっと重要なことは、**直感力(第六感)**を豊かに働かせ、**意欲**を自由に伸ばし、**創造**の喜びを体験することなのです。そのためには、**広い視野**に立って**人間性**を育てる**珠算塾**という**共同体**を見直し、その中で、**幼少時から五感を磨き**、**自ら考え**、**意欲と創造の精神**を育てる**珠算学習**を経験することが、現代社会で力強く生き延びていく**本人**の**将来**のために、最も大切ではないでしょうか。

[1]時実利彦：「人間であること」、岩波新書(G124)、(1970)

(大阪府立大学名誉教授 林 壽郎)

## ヒロヤの独り言

間もなく2018年も終わろうとしています。先生方に於かれましてはこの暮れはいかがお過ごしでしょうか。I.M.そろばん検定、ステップ1819・20の合格者は出ましたでしょうか。

最近、訳の分からない保護者もどきの方から珠算教育の検定試験の在り方についてご批判をいただく事がある。珠算教育に進級制度は必ず必要なものである。

最近、進級制度を無視して、英語を指導している教室がしばしば見受けられる。珠算教育の中に英語教育を入れることは手段であって目的ではない。しばしば、英語を取り入れていられる教室を見受けられるが、その先生は会話ができるのであろうか。珠算教育の進級制度は、明治の中ごろ学校教育にそろばんがなくなった時に、ある先生が検定制度を作ったと承っている。今日では、その制度が時代に即応したものであると考えられ改良された。今日、日本では大きく分けて三つの珠算団体がある。どの団体をみても珠算教育には縁遠い教育団体であるように思われる。

例えば、水素と酸素が結合すれば全く違った性質の水が発生する。同じように小学校一年生の時に算数、国語、理科、社会、音楽等の教材は学年が進むごとに難易度が高まっていく。6年生になると1年生から6年生のおなじ教科を難易度の違う強化を学習することによって自然に頭の中が整理されるように教育がされる。そろばんは81通りの運手法がある。それを縦横に学習することによって自然に子供の集中力、忍耐力、持続力、計算力等が身につくことにより、おなじ教科でも1年～6年生までの難易度のある教科を整理整頓し、理解する力が付く。学校教育の目的を珠算教育は十分果たしていると思われる。その進級制度を研究もせず今、否定している保護者もどきがおられるように見受けられる。今こそ我々珠算教育者は、保護者もどきに十分に理解させる必要がある。

もう一つ怖いのは、珠算教育者自身が進級制度を否定される先生がおられる。その先生にはSTEP1～STEP20まで今一度学習して戴く必要がある。それでは会員の先生方、来る年も良いお年をお迎えください。

2018.12 荒木 碩哉

## I.M. セミナー開催案内

I.M. 考えるそろばんは会員の先生方の勉強のための団体です。日頃生徒にそろばんを教えると自然に「知恵袋の知恵」がなくなります。知恵は先生の為にもいつも満杯にしておかなければなりません。

月に1度、早起きをしてセミナーに出席し、知恵袋を満杯にしておきましょう！

### ～12月のセミナー開催日程～

今まで通りご参加いただけますようお願いしております。

**第一講座**      **I.M公認講師**      **荒木 碩哉**      9:30～12:00

解説      Step-1      繰り上がり繰り下がりのない問題  
            Step-2      たし算と九九 九九の便利さ

■12月17日(月)	香川県セミナー	子どもステーション
■12月18日(火)	愛知県セミナー	川名珠算教室
■12月19日(水)	兵庫県セミナー	学道そろばん
■12月20日(木)	京都府セミナー	京都珠算連盟下京教場
■12月21日(金)	埼玉県セミナー	市民会館うらわ (※507集会室)

◆セミナー受講料      午前9時30分～正午      ¥2,500

◆教材費      Step 1～Step10      各      ¥245  
                  Step11                    各      ¥280  
                  Step12                    各      ¥300  
                  Step13～Step20      各      ¥350

※すでに教科書をお持ちの場合はそちらをご利用下さい。

※当日、別途実費申し受けます。

# Think with SOROBAN

第54回考えるそろばん検定試験施行日は12月16日(日)です。

試験日 平成30年 12月16日(日) 全国 一斉  
試験会場 IM会員教場・公共施設  
申込期間 平成30年 11月29日(木)～12月6日(木)  
申込方法 所定の申込み集計表に必要事項を記入の上、ファックスまたはEメールにてお申込みください。

IMそろばん検定部FAX：0297-86-6033

Eメールアドレス：im-kentei@imsoroban.com

受験料 12月7日(金)までに下記口座にお振込みください。

NPO法人 IMそろばん検定部

ゆうちょ銀行 10300-49758291

◆申込集計表等一式を配布いたします。検定の日程を確認の上お申し込みください。

## 次の考えるそろばん検定試験日程

第55回	2019年 2月24日(日)
第56回	2019年 4月28日(日)
第57回	2019年 6月23日(日)
第58回	2019年 8月18日(日)
第59回	2019年10月27日(日)

※検定試験の前には模擬問題練習が有効的です。

※検定試験問題見本のページは一通りご紹介させて頂きました。これからは是非模擬問題をお試し下さい。模擬問題はI.M.そろばん検定部、又は事務局へ電話・メールにてご用命下さい。



# サイコロのまなび

## 顧客の動向を探る！

### 【アナログだけの集客はほぼ不可能！？】

皆様は新規の生徒募集はどのように行っていますか？アナログなチラシ？デジタルなホームページ？はたまたクチコミなどでしょうか。一昔前はチラシの新聞折り込みなどがメインの集客方法だったのは忘却に至るほど昔の話ではないように思います。しかし、ここ数年で随分と集客方法は変化したと実感するばかり…。ある統計によると、新聞の契約件数が、朝日新聞は2010年頃、読売新聞は2015年頃から顕著に減少しています。つまり、新聞折り込みの効果が昔より見込めなくなっているという事実を示します。

### 【アナログとデジタルは連携させる】

とはいえ、まったく有効ではないということではありません。新聞折り込みに効果が見込めないということは、現在ではほぼ周知の事実であるため、なかなか手を出さない企業も増えてきています。逆に考えれば、そこにチャンスがある可能性もあります。

しかし、アナログだけではダメ。現在の購買行動は必ずと言っていいほどデジタルを経由します。気になるチラシを見つけたら「もっと詳しく知るため」「教室（店舗）の住所を調べる」「教室の評判を見る」など、調査をするのです。

少し前まではAIDMA（アイドマ）なんて言っていましたが、今ではAISAS（アイサス）という購買行動のフレームワークがあったりします。AISASは、

Attention／注意を引く

Interest／興味を持つ

Search／検索する

Action／行動する

Share／シェアする の頭文字をとったものです。

### 【大切なのは上手に誘導すること】

調査をするということは、検索エンジンで検索する…ということばかりではありません。もちろん検索がメインではありますが、他にもQRコードを読み取ってホームページへ誘導したり、TwitterやFacebook、インスタグラムなどのSNSでもっと教室のことを知ってもらうなどの方法もあります。

厳しいことを言えば「ホームページがない（古臭い）」「SNSをまったくやっていない」などの教室は「よくわからない」ので、消費者からすれば恐怖でしかありません。

ですが、上手にアナログのチラシからホームページやSNSに誘導してあげることで、チャンスは何倍にも膨らみます。今のチラシは教室の存在を知ってもらい、次の行動につなげる入り口という要素が強いのです。

IM そろばんのQRコード



# グローバルそろばんオリンピック2019

## 開催要項

- 開催日 2019年 3月3日(日)
- 会場 北とぴあ スカイホール
- 時間 午前10時～午後3時30分
- アクセス 東京都北区王子1丁目11-1  
・JR 京浜東北線 王子駅北口より徒歩2分  
・地下鉄南北線 王子駅下車5番出口直結  
・都電荒川線 王子駅前駅より徒歩5分
- 主催 N. P. O. 法人 I. M. そろばん
- 共催 N. P. O. GLOBAL SOROBAN INSTITUTE U. S. A.
- 参加費 選手1名につき 3,500円
- 競技内容
1. 学年別個人総合競技
    - 乗算・除算・加減算・聞取暗算・英語文章問題
    - 部門～4年生以下・5年生・6年生・中学生・高校一般
  2. 英語聞取暗算
  3. 英語聞取算
  4. 番外競技
- ※競技内容の詳細については、別紙をご参照ください。
- 申込方法 I. M. そろばんホームページから申込フォームをダウンロードしてEメールでお送りください。Eメール利用不可の場合はFAXにて所定の申込書でお送りください。参加費の納入は郵便振替でお願いします。入金をもちまして参加申込完了となります。

郵便振込 00150-1-167246 I. M. そろばん

申込締切 平成31年1月31日(木)

## 検定委員会だより

来年こそ、I.M. そろばん検定試験を会員、全員が受験体制を充実させましょう！！なんと  
と言ってもまず、Step 1 から！！

“また、大晦日がやって来ます “こんな言葉は昭和の名残りと思う程、懐かしい響きで  
す。そう言えば最近では大晦日だからと普段との違いはいかがなものでしょう…時代は変  
化しました。

N.P.O. 法人 I.M. そろばんも猪熊建夫副理事長のご出版「名門校100」のお蔭をもちま  
して「素晴らしいですね！」と会員も素晴らしい勉強をしているかの様に声掛けられ、嬉  
しい事でした。10月・研究集会にあたり、会員の先生より I.M. 事務所へ『会員の皆様  
のための本の購入費として寄付』の送金が有りました事のご報告を受け取りました。一会員  
としてもここに感謝し、お礼とともにご報告させていただきます。

生徒をどのような育て方をするべきか、再度お読み頂けましたら幸いです。紙面にて大  
変力強いご協力に感謝してご報告申し上げます。

I.M. は、30年度もまだ半ばです。今後の I.M. を支えるのは、何と言っても Step 2 0 ま  
でを小学6年生、および中学1年生までに合格を目指しましょう！！I.M. 検定が難しいの  
ではなく、学力が十分に行き渡る手順で学ぶことができる検定であります。それを合格す  
る学習の段どりを生徒一人ひとりの身に付けさせてあげましょう。それには、I.M. の年間  
行事を見つめ直しましょう！！

事務局・検定委員会

## 事務局だより

2018年12月158号を ★大切な先生へ一冊★ お手渡しのお願い

会員の皆様！お世話になっております。

当、I.M. そろばんは1999年にセミナーが開催されました。9月又は10月ごろだっ  
たと思います。「決まり良く 2000年からの会員になります。」と入会日を2000年1月  
となさった先生がおられた事を思い出しました。つまり、I.M. セミナーとして二十年を  
経過するに至りました。早いものですネ！ “足掛け二十年”と言われる訳です。

当初、張り切ってそろばん教室を充実させる為に勉強において下さった先生方、そして  
そのお教室を継承なさっておられる先生方へ久しぶりにお目にかかりたいものと、あいさ  
つ文をしたため乍ら懐かしく、是非とも「現在の I.M. そろばんを応援していただき」学力  
をスキルアップさせるそろばん教育の為に力をお借りしたいと存じます。

会員の先生方！『セミナーレポート158号』は、是非お知り合いの「そろばんの行く  
先」を想う 素晴らしい先生へプレゼントなさって下さるよう、あと1冊、同封させてい  
たいただきます。どうぞ、お手渡ししていただきますよう、お願い申し上げます。

I.M. そろばん 事務局

発 行	N.P.O.法人I.M.そろばん
発 行 日	2018年 12月 5日
発 行 人	荒木 光
企画・編集	山本亜季子
発 行 所	〒274-0806 千葉県船橋市二和西6-17-17
TEL	047-449-7765
FAX	047-447-3893
	E-mail: im@imsoroban.com
	URL: <a href="http://www.imsoroban.com">http://www.imsoroban.com</a>